

刀・劍・笑

劉定堅／脚本 馮志明／画
1988～2001年

●漫画紹介●

名刀「奪愛」で鮮やかに斬りまくる達人・横刀、その名のとおり剣の達人・名劍、拳と鬼脚で江湖を渡る笑三少。三人の達人をひとりずつ主人公に据え、ふりかかると名勝負を数話完結でつづったオリジナル武侠作品。「玉郎機構」から独立し「自由人公司」を設立した劉定堅と馮志明の、名刺代わりともいえる大成功作だが、のちに「色情漫画事件」がきっかけで自由人が分裂してからも馮志明の新天地「JA」で連載が続いた。

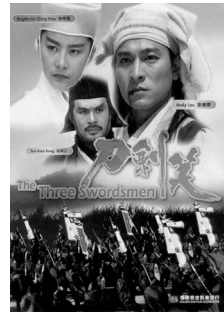


映画化作品

刀・劍・笑

現地公開：1994年 日本未公開

【監督】 タイラー・ウォン(黃泰來)
【出演】 アンディ・ラウ(劉德華) /
ブリジット・リン(林青霞)



★映画鑑賞メモ★

三人の達人から「笑」こと笑三少を主人公に据えた、おそらく映画オリジナルストーリー。しかも名劍を女優ブリジット・リンが演じている。なぜ？原作では普通に男性なのに。盗みと殺しの濡れ衣を着せられ官憲から追われる身となった笑三少が、好意を寄せてくる女侠や元カノを助けたり助けられたりしつつ事件の真相へ近づいてゆく。華やかな武侠ものにしなければということで、いちおうクライマックスに笑三少 vs 名劍、「真のナンバーワン達人は誰だ！」対決もある。が…

かなり粗い映画である。アクションシーンは編集でのごまかしが多いし、とってつけたようなワイヤーワークは「これ、戦いの上で必然性ある？」と首をかしげること屢々。編集がテキトーすぎてカットが変わるとアンディ・ラウの顔色がぜんぜん変わっていたりする。女侠たちとのイチャイチャバタバタもいちいち甘ったるい。まだ若かったアンディの顔立ちの美しさぐらいしか見どころのない映画。その後の傑作漫画映画百花繚乱時代を前に、語られることも少なくひっそり埋もれているのは「まあ当然かな」という気もする。